

額田地域コミュニティ路線見直しの方向性について

1 ささゆりバス

| 項目 | 現運行 | 見直し案 |
|-------|-----------------------------|---|
| 主な起終点 | 下山地区～岡崎げんき館前・北部診療所 | |
| 運行日 | 市街地便：4～8便（月～金） 地区内便（火・金） | <ul style="list-style-type: none"> ・現行の運行日等は維持するが、利用の少ない便等の削減のほか、市街地便の運行見直し（4往復から3往復）を検討していく。 ・車両サイズの変更 |

1 現運行の課題等

利用者数の減少

- 要因**
- ・高校への通学利用者の減少
 - ・定期的に利用していた高齢者が利用しなくなった。

2 その他

地域独自の取り組みとして、協賛金制度の導入と合わせて企業へのささゆりバス周知等に取り組んでおり、他地域と比較すると地域住民の主体的な取り組みが見られる地域である。

2 乙川バス

| 区分 | 現運行 | 見直し案 |
|-------|-------------------------------|--|
| 主な起終点 | 北部診療所～南大須・鍛埜地区／切山・小久田・毛呂・井沢地区 | |
| 運行日 | 週3日（月・火・木） | <p>週1日（曜日は要調整）</p> <p>週1日の運行に集約し、効率的な運行とする。</p> |

1 現運行の課題等

全戸アンケートによると、乙川地区線の恒常的な利用者は非常に少ない。
（毎日利用：1人、月数回利用：8人、年数回利用：7人）

2 見直し案の考え方

- （1）運行の効率化を図るため、週3日（月・火・木）から週1日の運行に集約
 - ・北部診療所に通院する方の15%が乙川バスを利用している。
 - ・診療所への通院は月1～4回程度が多い。（90%）
- （2）大幅なダイヤ変更等は行わず、停留所やルートは現状通りとする。
- （3）形埜小学校付近へのフリー乗降区間の設定を検討。

3 のってこバス

| 区分 | 現運行 | 見直し案 |
|-------|-------------------|--------------------------------------|
| 主な起終点 | 宮崎診療所～大雨河地区・千万町地区 | |
| 運行日 | 週2日（月・水） | 週1日（月、又は、水） 週1日の運行に集約し、効率的な運行とする。 |

1 現運行の課題

(1) 空バスが多く走行しており非効率な運行

前回の運行見直しにより週2日運行に集約し、診療所への便数を増やしたものの、木下・千万町地区線は、2便目と4便目の利用が少なく空バスでの運行がほとんどである。

| 便数 項目 | 2便目 | | 4便目 | |
|----------|------|------|------|------|
| | 利用者数 | 空バス率 | 利用者数 | 空バス率 |
| 29年度 | 2人 | 98% | 4人 | 97% |
| 30年度 | 11人 | 89% | 12人 | 93% |

(2) 恒常的な利用者が少ない

- ・全戸アンケートによると、宮崎地区線の恒常的な利用者は非常に少ない。
(月数回利用：8人、年数回利用：15人)
- ・「大代～熱田神社」区間は利用がほぼない。(H29：1人 H30：3人)

2 見直し案の考え方

(1) 共通項目

- ①運行の効率化を図るため、週2日（月・水）から週1日（月若しくは水）の運行に集約する。
 - ・宮崎診療所に通院している方の6.8%がのってこバスを利用している。
 - ・診療所への通院は月1回程度が多い。(72.9%)
 - ・宮崎診療所の受付時間である午前11時までに到着するダイヤとする。
- ②大幅なダイヤ変更等は行わず、停留所やルートは現状通りとする。
- ③約1～3時間の診療時間を確保するダイヤ設定とした。

(2) 木下・千万町地区線

- ①利用のほぼない2便目と4便目を取りやめ、診療所への行き・帰り各1便の運行とする。(現行の2・4便目を廃止)
- ②木下・千万町地区線はくらがり線での乗り換えが可能とした。
(宮崎学区市民ホーム9：13発)

(3) 大雨河地区線

- ①「大代～熱田神社」間の利用者はほぼいないため、路線を廃止とする。
- ②ダイヤは1便目と2便目は現状通りとし、3便目は12：15発に変更する。

4 ほたるバス

| 区分 | 現運行 | 見直し案 |
|-------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 主な起終点 | 星野クリニック～夏山地区・鳥川地区 | |
| 運行日 | 週2日（火・金） 夏山地区線：火のみ 鳥川地区線：火・金 | 週1日（火のみ） 週1日の運行に集約し、効率的な運行とする。 |

1 現運行の課題

(1) 鳥川地区線の1便当たり利用者数が1人を下回っている。

週2日運行している鳥川地区線の利用者数が0.8人/便となっており、空バス率も45%と非効率な運行となっている。

| 30年度実績 | 便当たり 利用者数 | 空バス率 |
|--------|--------------|------|
| 鳥川地区線 | 0.8人/便 | 45% |
| 夏山地区線 | 3.3人/便 | 4% |

(2) 恒常的な利用者が少ない

- 全戸アンケートによると、豊富・夏山地区線の恒常的な利用者は非常に少ない。
- ・夏山地区線 月数回利用：4人、年数回利用：5人
 - ・鳥川地区線 月数回利用：4人、年数回利用：18人

2 見直し案の考え方

(1) 共通項目

- ①運行の効率化を図るため、週2日（火・金）から週1日（火）の運行に集約
 - ・星野クリニックに通院している方の10%がほたるバスを利用している。
 - ・星野クリニックへの通院は月1回程度が多い。(80%)
- ②停留所やルートは現状通りとするが、週1日運行への変更に伴い、診療所到着時間の関係でダイヤ調整は必要となる。(約1時間30分の診療時間を確保するダイヤ設定を検討する。)

(2) 夏山地区線

- ・現行通りのルートとするが、フリー乗降区間を新規設定することを検討する。